

研究課題名：脳卒中急性期診療に医療業務タスク管理システムを導入することによる
診療効率に与える影響に関する多施設共同前向き観察研究

① 研究の目的：

脳卒中治療における早期治療開始は喫緊の課題です。名古屋市立大学医学部附属東部医療センター（以下「EMC」）では、脳卒中を発症した方の来院から治療までの時間（DNT：Door-to-Needle time）を短縮するために、藤田医科大学等が開発したアプリケーション Task.Calc.Stroke3（タスカル3）を用いて脳卒中の治療連絡を行うこととなりました。本研究は、このアプリケーション導入により、導入前と比べてDNT等の治療時間や転帰がどのように変化するかを明らかにするために藤田医科大学（研究代表者：脳卒中科 松本省二）が行うものに、EMC脳神経内科が参加するものです。

② 研究期間：

西暦 2021年 4月 ～ 西暦 2022年 3月 31日

③ 研究代表者及び研究実施施設

研究代表者：藤田医科大学 脳卒中科 松本省二

共同研究機関：名古屋市立大学医学部附属東部医療センター（EMC）、富山済生会病院、東京都立産業技術大学院大学

④ 研究の対象：

- ・後ろ向きコホート群：2021年1月から2021年4月（タスカル3導入準備完了日）の間、発症24時間以内にEMCに入院した20歳以上の脳卒中の方で、診断が脳梗塞でありrt-PA投与又は血管内治療を受けた方
- ・前向きコホート群：2021年4月（タスカル3導入準備完了日の翌日）から2021年12月31日までに発症24時間以内にEMCに受診した20歳以上の脳卒中の方で、診断が脳梗塞でありrt-PA投与又は血管内治療を受けた方

⑤ 調査項目：

入院時の年齢、性別、発症前の状態(modified Rankin Scale; mRS)、身長、体重、高血圧・脂質異常症・糖尿病・脳梗塞・虚血性心疾患の既往歴、内服薬、救急搬送の有無、タスカル3使用の有無、診療時間（時間内か時間外か）、発症から来院までの時間、来院時の脳梗塞の重症度(National Institutes of Health Stroke Scale; NIHSS score)、頸部・脳主幹動脈の閉塞の有無、COVID-19 対応の有無、COVID-19 感染の有無、rt-PA 投与に伴う出血性合併症の有無、追加の血管内治療の有無、在院日数、退院時の状態(mRS)、DNT、血管内治療を行われた症例については来院から穿刺までの時間、穿刺から再開通までの時間、rt-PA 静注療法の適応を判断するための検査までの各時間 (Door-to-Imaging time^{*}、Door-to-CBC time^{**}、Door-to-PTT time^{***})、発症 3 ヶ月後の mRS

※：Door-to-Imaging: 来院から画像診断（CT又はMRI）終了までの時間

※※：Door-to-CBC time: 来院から全血球計算の検査結果までの時間

※※※：Door-to-PTT time: 来院から APTT の検査結果までの時間

⑥ 研究の方法：

研究責任医師/分担医師が対象となる方の診療録より「⑥調査の項目」の情報を調査し、REDCap という Web システムに入力します。得られた情報は藤田医科大学で集計・解析されます。

⑦ 研究成果の公開

研究結果は、学会や学術雑誌にて公表予定です。

⑧ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて研究に必要な情報収集を行います。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

⑨ 利益相反

本研究に係る利益相反はありません。

⑩ 問い合わせ先

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 住所：〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号	脳神経内科	山田健太郎 TEL : 052-721-7171 (代表)